

吉備国際大学大学院（通信制）保健科学研究科理学療法学専攻

平成 26 年度修士学位論文

学生番号	M941301
氏名	岡前 暁生
学位	修士（理学療法学）
指導教員	原田 和宏
副指導教員	水谷 雅年・元田 弘敏
論文題目	ショートステイ入所前後における要介護者の日常生活動作，神経心理学的症状の変化についての検討
要旨 (200字以内)	ショートステイ入所前後の要介護者の ADL および神経心理学的症状の変化について 2 日間の評定により記述し，その変化について検証することを本研究の目的とした．対象はショートステイを利用した要介護者 50 名．ショートステイ入所後には，Neuropsychiatric Inventory 改変版と Cornell Scale for Depression in Dementia 改変版，Barthel Index に有意な改善を認めた．ショートステイの利用に伴い，要介護者の ADL，神経心理学的症状は悪化よりむしろ改善する可能性が高いことが示唆された．

学生番号	M941302
氏名	川人 裕也
学位	修士（理学療法学）
指導教員	佐藤 三矢
副指導教員	齋藤 圭介・秋山 純一
論文題目	理学療法士養成校における科目別成績評価と臨床実習総合評価（実習判定）との関連性
要旨 (200字以内)	本研究は，理学療法士養成校において実施されている臨床実習総合評価（実習判定）に影響を与える変数（科目）を抽出することを目的に実施した．昨今では理学療法学生（PTS）の質の問題が提起されている．PTS の学習形態に関する報告は散見されるが，科目別成績評価に関する報告は少ない．本研究によって，実習判定に影響する科目についていくつかの知見が得られたので，ここに報告する．

吉備国際大学大学院（通信制）保健科学研究科理学療法学専攻

平成 26 年度修士学位論文

学生番号	M941303
氏名	木庭 孝行
学位	修士（理学療法学）
指導教員	齋藤 圭介
副指導教員	森下 元賀・井上 茂樹
論文題目	高齢整形疾患患者の自宅復帰後早期における活動能力・生活空間の経時的推移と退院時の機能的状態の関連性
要旨 (200字以内)	平成 26 年 3 月から 11 月までに岡山県内 1 ヶ所の病院に入院した急性期の高齢整形疾患患者を対象に，自宅退院後早期における活動能力・生活空間の経時的推移と退院時の機能的状態の関連性について検討した．その結果，退院後 3 ヶ月間の活動能力と生活空間の状態像は，退院時の運動機能や認知機能の観点により予測できる可能性が示され，退院時指導や生活適応過程の理学療法においてこの 2 つの側面に注目する必要性が示唆された．

学生番号	M941304
氏名	熊代 功児
学位	修士（理学療法学）
指導教員	森下 元賀
副指導教員	河村 顕治・川上 照彦
論文題目	人工股関節全置換術施行患者の自覚的脚長差が術前および術後早期の静止立位における下肢荷重特性に及ぼす影響
要旨 (200字以内)	人工股関節全置換術施行患者の自覚的脚長差（以下，P-LLD）が術前・術後早期の静止立位における下肢荷重特性に及ぼす影響を明らかにすることを目的に，前額面における 2 次元の解析を行った．術前は手術予定下肢側へと骨盤を傾斜させることによって P-LLD を消失させ，術後早期は P-LLD を有すると術側下肢への荷重率が小さく，股関節内転角度が小さい状態で荷重することによって，術側股関節内転モーメントが軽減する．

吉備国際大学大学院（通信制）保健科学研究科理学療法学専攻

平成 26 年度修士学位論文

学生番号	M941305
氏名	菅田 伊左夫
学位	修士（理学療法学）
指導教員	原田 和宏
副指導教員	齋藤 圭介・川浦 昭彦
論文題目	地域在住の虚弱高齢者の転倒発生に対する Four Square Step Test の判別特性の検討
要旨 (200字以内)	本研究は虚弱高齢者の地域での転倒発生に対して Four Square Step Test が判別特性を持つか否かを検討することを目的とした。対象 31 名の 6 か月間の追跡調査にて転倒発生は 6 名生じ、転倒群と非転倒群で平均値は 17.28 ± 6.41 と 15.83 ± 6.62 秒で有意差は見られなかった。転倒発生に対する感度と特異度は 50% と 25% であった。転倒発生に対する予測妥当性は支持されず、身体諸機能の低下を有する虚弱者では単一の機能での予測は困難であることが示唆された。

学生番号	M941306
氏名	樋口 隆志
学位	修士（理学療法学）
指導教員	井上 茂樹
副指導教員	川上 照彦・河村 颯治
論文題目	高校野球選手における小胸筋に対するストレッチ方法の違いが小胸筋長および肩甲骨位置位与える影響
要旨 (200字以内)	本研究は、2 種類の異なる小胸筋ストレッチ方法の効果の違いを明らかにすることを目的とした。対象は、高校野球部員 34 名とした。測定項目は、小胸筋長、安静時の肩甲骨位置、上肢挙上時の肩甲骨回旋角度とした。ストレッチ法は、doorway stretch と retraction30° stretch とした。いずれのストレッチにおいても介入前後に効果が見られた。また、小胸筋長と肩甲骨位置において doorway stretch が有用である可能性が示唆された。

吉備国際大学大学院（通信制）保健科学研究科理学療法学専攻
平成 26 年度修士学位論文

学生番号	M941307
氏 名	吉岡 雄一
学 位	修士（理学療法学）
指導教員	中嶋 正明
副指導教員	井上 茂樹・川上 照彦
論文題目	スロートレーニングにおける運動単位動員特性の解析
要 旨 (200 字以内)	スロートレーニング（以下スロトレ）法の動員特性を研究した．対象は 20 歳代の健常男性で，最大筋力の 50～80%を高強度通常速度群，低強度通常速度群，低強度スロトレ群の 3 群に分け膝伸展運動を実施した．結果，高強度通常速度群，低強度通常速度群，低強度スロトレ群で平均周波数に有意差は認めず．%パワースペクトルでは他の群に比べ，低強度スロトレ群が，Type I 線維が動員される傾向を認めた．